



古学集
三才集

世間娘容氣

新板
繪入

世間娘容氣

二

新板
繪入

世間娘容氣

三

新板
繪入

世間娘容氣

四

新板
繪入

世間娘容氣

五

新板
繪入

世間娘容氣

六

世間娘容氣

新板
繪入

世間娘容氣

二

新板
繪入

世間娘容氣

三

新板
繪入

世間娘容氣

四

新板
繪入

世間娘容氣

五

新板
繪入

世間娘容氣

六

世間娘容氣

▲ 西のりよ

娘宮乳遊加

浮世親仁秋乳 全の巻

附老本再新記

太近てか却りい

并色乃格遊

天性大の乳質

付二代の大

衣好色代田

遊長多回系

色田二味線日

其の碩

并は後多の丸

好色流球芋

付吟の

好色三世相

風流色のと本

陰陽之石

太の河

遊り中

谷村信之

各様

流るる

席

息女化して新婦と有り。埋愛とく姑と有り

姑妖と嫗と有り。持佛堂と有り。つよ並のあり

弟と有り。とて也。毛あ姑嫗と幼るは母より

父母中ら寤るふあづら。深国の中に我まに

うらら。女れ乃とまなまへ。一生孫子の毛

てあつひまのふるわり。毛皆三つ子れ

毛ととるころへ。毛世活れとく。幼づより

ら乃修より育。毛人なる。毛とて女れ

か。毛一毛。毛智人。毛勝とる。毛とあり



世帯がふふと病々くまのくはるるなり
 乃徳をほめく 國難乃難とて 心今あて
 志くよく 志くるふ好色乃乃ぞう。まき色よ
 かしと 志くまの 志くまの 志くまの 志くまの
 頻歩くと 世帯が 志くまの 志くまの 志くまの

享保二季中姪吉旦

其蹟 

世間娘氣質一之巻

目録 子息業質追加

男と麗ふお金お威光娘

女房わりのるる 志くまの 志くまの 志くまの
 福と結業れあはるる げ肌 志くまの 志くまの
 嫁への志くまの 志くまの 志くまの 志くまの
 大神楽に 志くまの 志くまの 志くまの

美男よ自然とらうつりまらりあつづくれほろろを
 り。あざと今時乃女の風俗描の目と向い事ませ付くま
 かることり。まを付くるるふ今ねもさるあつかり。あえん
 ゆりれ女書子ごうかく本海足袋とねえそ被入銀乃弁と
 楊枝より新状理の格と鼻紙袋よああ細りのめんじゆ衣
 と何傷よまごりわけの上もれ衣裏とかる。首筋とごりのけ
 衣被よまみ新入させか。まよつらる白あめれけ細行
 つらぬ鼻紙手拭またして供の下女もまを青書うれしく
 極女れ田のまあよゆく。裾まごりわけごんが奥倉る合
 焼やう打まごりして風俗もと酒さきんはまがる。あひれ
 まのきんは飯形繩の戸とまを極女れ見して
 海らうと男小指つと京れあやと大膳る事。あひんは
 や京れと京書あつてハ御結とらあまのなごうごらる。あ
 近年の女世習かあつらうと。歴のあひるまを女種のをと
 いとそつた御結あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 やつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 ともあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 けの鳥帽子あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 やつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 けあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 せんまをけ髪結あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ
 びれはせとあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あ



菓子入は切食ふれ者あなませられて移るよは海鏡のお倉茶
種は樹尾のくさき入るあつれきくあよひ水をゆて
髪はらう折は帷子の度種は地文の裏付とらりむせ帯を
兼縞やえつう花紋の白くわこのお方よとらうるん博所
から入るのそくものあつれつうくれくりてあつれき
ぬかむらきせよの座れ姉か方の昔の記付もきじひ
いりせよききり家久とそせぬよひけらきこいりぬ
ぬれ入るつうの角れおの鈴音りて録入めをきぬる園
乃風きつるつうの家文の裏する事たらうるかむいりる
あつれせむれ女のつうあつれきく事よかまらりてあつれ
よこあつれこの様あつれせきあつれつうせきあつれこの
とんまき事よそい入るききあつれんごよがたり十位善并かき
三條源経のら花むらびとて女れくむむ程の事いんとて仕
つうとくまき事よ系れ相撲の袖白七め雷電が勝負きき
えきあつれまいとゆき金ゆきま秋の燈るまきあつれこの
らう。女れきあつれきこの事むらひゆきあつれつう事と
か。世名一切の男あつれきあつれき。けきあつれきと細目とてうか
つくと成敷者かよはあつれきあつれき。具れきあつれき
きむらつ。ききあつれき。殿の針糸お后姐已の針よつとて。蛇のたを
えきく園とよらつとて。周の幽まの慶似よのびて熱あつれきあつれ
えきくれ。ききあつれき。女房よらつとて。目れきあつれき。あつれき
の月とそあつれきの代三百とそあつれき。新判しと八百。あつれき

（This page contains bleed-through text from the reverse side, which is mostly illegible due to fading and the cursive style.)



かまじくいふてん代に後八更三百サ六又六男が所へあひ
 ありては業れ強者があきとあつとそそふかた請ふとひ
 やんじむうの女れたごこのむ事極女れわの性成るもさうりる
 なるよ。今たごこのまぬ女と。精をさうゆ家ハ稀なり。まの所人
 ろぐう能氣とよらまして。そらわらまを貴れ有位に代へ家成
 もさく名ぬる乃乃をさつて。さる茶の湯花は舞学お女世れ
 事業とさうと。さうさうの方の大名さまよて。春西さんて内侍のや
 どもたは方れ須じぶとさうびとさう人。あふなき家成の流
 ふらうく。さうも音曲乃業妙ありと。蕭の名人六月はさの潤子
 さうそておととさう。壽命の潤子とさうのくいま乃鼻毛との
 とさそ業とさうひ氣かうとさひ方さ花車てりあり。あ。夏の際の

飯海のるると。藤納れ。淳子の中へ。又人のまれ。業やよあり
 物とさうのう。名勢あ。の業とさうり。を。男氣とさう。は。まじ。冬ハ
 八人。信れ。大。柱。あ。わ。り。て。ね。業。切。さ。う。り。ゆ。き。よ。よ。は。は。は。表。と。さ。う。を。
 史。ぬ。福。あ。う。う。名。前。香。と。さ。う。の。く。宮。主。後。官。室。の。八。徳。物。り。さ。め。く。神
 へ。と。毎。り。て。あ。海。の。ま。ま。れ。他。性。と。さ。う。あり。あ。く。さ。は。は。業。田。の。う。う。と。さ。う。
 び。人。の。親。に。つ。つ。ら。る。富。貴。の。程。と。ま。た。と。さ。う。今。子。の。代。に。報。れ。ら。る。ま。の
 あ。さ。う。り。利。報。信。元。行。は。ら。喜。い。り。と。さ。う。あ。う。う。あ。家。は。報。乃。業。と。
 ば。て。い。ち。う。う。う。と。さ。う。大。き。い。氣。よ。さ。を。性。と。さ。う。け。つ。ら。若。ひ。と。り。も。ま。を。
 か。事。業。月。れ。ら。あ。は。は。月。の。ま。ま。く。門。松。そ。め。ら。り。さ。り。び。さ。う。に
 て。さ。う。と。ま。い。り。さ。う。の。ま。男。あ。て。母。室。若。の。申。さ。と。さ。う。の。母。より。女
 房。子。若。の。さ。う。男。さ。は。果。結。ら。れ。い。何。う。は。よ。よ。お。さ。う。新。ひ。あ。り

まゝと申す事あり。されども我れは、
とまはして、
色はと申すておれれが、
切く、
後と禱うか、
ほり、
と申す事あり。されども我れは、
の、
此、
國姓、
目、

ろ、
こ、
の、
こ、
内、
乃、
な、
自、
み、
ら、
ふ、
蕭、

末娘を之類と極くれた。大后は之を以てつゝ、あみこを御迎はる
 に、奇好とありて、坐させられしと、古宗は影として、席極よと云れり。
 鼻もあつて、おろし、ゆへに、元來、蕭の名人、阿の秋と、
 肉店、煮と、と、旅人、志と、と、云、漢楚の戦ひの、は九里、山と、
 張良が、體と、と、一と、よ、ま、と、つ、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
 言、ま、い、に、ま、ま、い、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
 胎、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 毛、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 弄、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 志、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ら、洞、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ぬ、る、附、れ、事、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ち、る、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ち、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 て、は、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ち、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 と、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 の、飯、料、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 る、事、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 け、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 は、舞、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 と、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、

ぬる附れ事ままいませの流つと、腰をさうや、つと、よその女た、
 ちるま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ちま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ては、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 ちま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 とま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 の飯料ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 る事ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 けま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 は舞ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、
 とま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、い、

世説新語 卷之八

十三



中のまひさうれおるねん。今町人のせうへは母は信あがらあり
むられむらうらふはくわる。商親さなかり。おははきは級一
乃由純らうとも同じかき。きんも色のはき。おたるおはは
うきりく。他人信ちき丸と極して。後やのほき。或はとりの大
肉山の巻乃香とやう。目録と依りし。あありくととりの吹うと
ひと款の乃たま。ごうう。お花巻らう。ひと。指録のうら。あ
あるまき。きとて。極わとをう。め。物親。きと。少。おの。極うとやう
あきんち。同じ。仲史と。ねめ。きむと。ひ。二。又。業の。鯛。と。むら
うたの。あり。その。と。首。福。り。と。う。り。せ。の。美。う。て。も。ま。は。短。紙。か
いつ。二。口。答。て。ら。口の。う。あ。る。と。物。毎。や。う。う。く。糖。味。る。ま。と。酒。蒸。と
ん。の。と。見。ま。の。ひ。の。牙。子。や。き。ま。ま。と。き。我。わ。い。う。あ。の。う。う。ら。日。が。片。を
は。如。房。と。和。く。大。の。の。ま。い。ら。う。は。う。ら。う。ひ。び。ん。う。り。や。り。の。物。お
ら。り。と。う。く。妻。あ。ま。と。ほ。世。の。ま。あ。う。き。と。ま。れ。物。の。接。ね。と。後。お
て。られ。れた。の。月。ち。鼻。毛。も。あ。あ。と。う。き。う。う。と。女。あ。自。體。い
つ。う。く。家。業。さ。う。ま。の。の。目。定。お。れ。後。お。と。う。て。花。嘉。事
お。ん。て。う。き。う。う。く。福。お。う。く。鏡。足。て。き。う。日。孫。が。は。も。ん。せ。め。い。ま。ま
お。と。身。代。は。か。り。ぬ。う。ま。れ。て。う。ま。ま。れ。と。あ。り。後。思。後。を。と。こ。は
て。後。肌。ぬ。ま。て。腹。後。よ。あ。る。痛。も。見。お。え。ら。う。の。の。の。接。み。あ。ら。い。あ。り。ま
て。接。接。う。お。れ。う。う。の。こ。足。と。あ。う。う。う。の。乃。華。樂。れ。珍。れ。事。と
確。ま。し。う。う。女。ま。れ。移。の。白。い。と。お。ま。の。音。と。と。ん。と。も。い。り。り。か
の。こ。ま。ご。ら。ん。と。ま。念。ま。り。う。て。あ。ま。と。の。女。れ。命。ま。け。う。う。ま
い。も。と。り。り。地。う。う。た。ぬ。も。り。る。れ。ら。さ。い。昔。因。り。先。よ。お。足。志。て

は。如。房。と。和。く。大。の。の。ま。い。ら。う。は。う。ら。う。ひ。び。ん。う。り。や。り。の。物。お
ら。り。と。う。く。妻。あ。ま。と。ほ。世。の。ま。あ。う。き。と。ま。れ。物。の。接。ね。と。後。お
て。られ。れた。の。月。ち。鼻。毛。も。あ。あ。と。う。き。う。う。と。女。あ。自。體。い
つ。う。く。家。業。さ。う。ま。の。の。目。定。お。れ。後。お。と。う。て。花。嘉。事
お。ん。て。う。き。う。う。く。福。お。う。く。鏡。足。て。き。う。日。孫。が。は。も。ん。せ。め。い。ま。ま
お。と。身。代。は。か。り。ぬ。う。ま。れ。て。う。ま。ま。れ。と。あ。り。後。思。後。を。と。こ。は
て。後。肌。ぬ。ま。て。腹。後。よ。あ。る。痛。も。見。お。え。ら。う。の。の。の。接。み。あ。ら。い。あ。り。ま
て。接。接。う。お。れ。う。う。の。こ。足。と。あ。う。う。う。の。乃。華。樂。れ。珍。れ。事。と
確。ま。し。う。う。女。ま。れ。移。の。白。い。と。お。ま。の。音。と。と。ん。と。も。い。り。り。か
の。こ。ま。ご。ら。ん。と。ま。念。ま。り。う。て。あ。ま。と。の。女。れ。命。ま。け。う。う。ま
い。も。と。り。り。地。う。う。た。ぬ。も。り。る。れ。ら。さ。い。昔。因。り。先。よ。お。足。志。て

百のわろ麗うらぬける分代お那せあるんがきりごと。女房が乳
 ごとくはくしごうわらで商賣して持てるもらむらむらむら。一倍
 ちよれ鏡をとりとりとてあつひさむらむらむら。さしてはむらむら
 つとむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 きてむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 ごとくこれむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 となりむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 又思ふむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 の結帯きてむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 合かれ合むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 自由むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 室の持女むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 ぎらめむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 壁むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 元と一人むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 乃結帯をむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 うあむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 んむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 おむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 ひとむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 ねむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
 てむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

世故 一之

おろしく^{あつ}きしよとよあつう。又せつとよあつうまは^{あつ}る一世
 一代の^{アズ}おれの入あしとくさくあつるかと^{あつ}視^{あつ}るよき^{あつ}身^{あつ}然^{あつ}
 こそ^{あつ}て^{あつ}は^{あつ}ぬ^{あつ}く^{あつ}と^{あつ}爾^{あつ}人^{あつ}よ^{あつ}び^{あつ}村^{あつ}宿^{あつ}よ^{あつ}失^{あつ}念^{あつ}せ^{あつ}る^{あつ}あ^{あつ}れ^{あつ}ん^{あつ}
 け^{あつ}は^{あつ}ぬ^{あつ}先^{あつ}よ^{あつ}わ^{あつ}て^{あつ}き^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}て^{あつ}ま^{あつ}れ^{あつ}と^{あつ}事^{あつ}さ^{あつ}さ^{あつ}ら^{あつ}は^{あつ}我^{あつ}方^{あつ}わ^{あつ}
 らん^{あつ}に^{あつ}ぬ^{あつ}は^{あつ}ね^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}て^{あつ}後^{あつ}の^{あつ}由^{あつ}も^{あつ}内^{あつ}後^{あつ}よ^{あつ}し^{あつ}ね^{あつ}に^{あつ}ぬ^{あつ}ひ^{あつ}ら^{あつ}
 小^{あつ}町^{あつ}先^{あつ}に^{あつ}び^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}よ^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}と^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}う^{あつ}我^{あつ}も^{あつ}あ^{あつ}て^{あつ}わ^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}相^{あつ}ま^{あつ}
 ん^{あつ}く^{あつ}ひ^{あつ}ら^{あつ}の^{あつ}中^{あつ}新^{あつ}と^{あつ}き^{あつ}て^{あつ}わ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}あ^{あつ}ま^{あつ}と^{あつ}事^{あつ}を^{あつ}ま^{あつ}
 付^{あつ}て^{あつ}も^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}と^{あつ}き^{あつ}し^{あつ}せ^{あつ}と^{あつ}に^{あつ}ぬ^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}あ^{あつ}た^{あつ}念^{あつ}も^{あつ}あ^{あつ}る^{あつ}り^{あつ}
 事^{あつ}あ^{あつ}よ^{あつ}し^{あつ}を^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}用^{あつ}事^{あつ}い^{あつ}ゆ^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}て^{あつ}背^{あつ}戸^{あつ}の^{あつ}し^{あつ}ひ^{あつ}ら^{あつ}見^{あつ}
 と^{あつ}ぶ^{あつ}ら^{あつ}し^{あつ}た^{あつ}ぬ^{あつ}ら^{あつ}い^{あつ}ぬ^{あつ}想^{あつ}え^{あつ}り^{あつ}と^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}入^{あつ}扱^{あつ}と^{あつ}り^{あつ}牙^{あつ}た^{あつ}
 い^{あつ}ぬ^{あつ}時^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}し^{あつ}癪^{あつ}て^{あつ}書^{あつ}徳^{あつ}入^{あつ}美^{あつ}ら^{あつ}ら^{あつ}る^{あつ}い^{あつ}ぬ^{あつ}思^{あつ}案^{あつ}の^{あつ}せ^{あつ}ませ^{あつ}ぬ^{あつ}。

つら^{あつ}き^{あつ}も^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}し^{あつ}け^{あつ}ら^{あつ}る^{あつ}か^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}の^{あつ}い^{あつ}ぬ^{あつ}者^{あつ}の^{あつ}他^{あつ}行^{あつ}て^{あつ}は^{あつ}ひ^{あつ}ら^{あつ}
 し^{あつ}ら^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}。元^{あつ}は^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}の^{あつ}負^{あつ}け^{あつ}を^{あつ}ま^{あつ}し^{あつ}て^{あつ}ま^{あつ}と^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}を^{あつ}わ^{あつ}後^{あつ}よ^{あつ}
 たら^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}ら^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}も^{あつ}し^{あつ}ぬ^{あつ}。其^{あつ}の^{あつ}は^{あつ}ま^{あつ}し^{あつ}ぬ^{あつ}物^{あつ}を^{あつ}よ^{あつ}び^{あつ}を^{あつ}
 其^{あつ}後^{あつ}たら^{あつ}ぬ^{あつ}も^{あつ}し^{あつ}ぬ^{あつ}。元^{あつ}は^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}の^{あつ}百^{あつ}あ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}を^{あつ}い^{あつ}割^{あつ}す^{あつ}の^{あつ}利^{あつ}を^{あつ}又^{あつ}返^{あつ}
 く^{あつ}よ^{あつ}ら^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}。七^{あつ}の^{あつ}分^{あつ}を^{あつ}と^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}て^{あつ}十^{あつ}の^{あつ}分^{あつ}を^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}も^{あつ}の^{あつ}
 方^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}と^{あつ}判^{あつ}を^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}り^{あつ}て^{あつ}算^{あつ}用^{あつ}を^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}
 と^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}も^{あつ}し^{あつ}ぬ^{あつ}。元^{あつ}は^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}の^{あつ}百^{あつ}あ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}を^{あつ}三^{あつ}分^{あつ}
 あり^{あつ}て^{あつ}算^{あつ}用^{あつ}を^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}て^{あつ}十^{あつ}の^{あつ}分^{あつ}を^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}。町^{あつ}宿^{あつ}
 とも^{あつ}り^{あつ}同^{あつ}院^{あつ}の^{あつ}し^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}も^{あつ}算^{あつ}用^{あつ}の^{あつ}わ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}。元^{あつ}は^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}の^{あつ}百^{あつ}あ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}を^{あつ}
 七^{あつ}の^{あつ}分^{あつ}を^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}。町^{あつ}宿^{あつ}の^{あつ}し^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}も^{あつ}算^{あつ}用^{あつ}の^{あつ}わ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}。元^{あつ}は^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}の^{あつ}百^{あつ}あ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}を^{あつ}
 七^{あつ}の^{あつ}分^{あつ}を^{あつ}あ^{あつ}つ^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}。町^{あつ}宿^{あつ}の^{あつ}し^{あつ}ら^{あつ}ぬ^{あつ}も^{あつ}算^{あつ}用^{あつ}の^{あつ}わ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}。元^{あつ}は^{あつ}借^{あつ}財^{あつ}の^{あつ}百^{あつ}あ^{あつ}り^{あつ}ぬ^{あつ}を^{あつ}

世故 一之
 借財
 元
 借財
 算用
 町宿
 同院
 借財
 算用
 町宿
 同院

おのれは女房のついでにあれどくわお後らぐりて高きくはぬく
又お後らぐりぬるさうさあつうらと相あれはびみろ物であけ
とさうくしてきてひん移ら用人のまをせの役人をおうと奴小
て今からも考合のきりては女房のあそびにしか衆れ徳をれま
やうに肉をそであんすうのよとさうまをよとらひどのんを下と
あくとまかすまきり若一冊のたをひことまらよのうに女房れは
よかりてもろよのうだのこころひをこころよひしてとらと衆面して
あぐりてうきりたれ役人おまよわうてあぐりてあぐり
なむりしてまきりて後らぐりてさうびしてとれ過まて由さ成り内
くさありまーんは内美のんをきりては男のあつていさり
まーんわろくあつては男のあつてはまのあつてはさ家事は元ぐりて
まーてははとさうらぐりまーていさうさけりて考つあつて
うりて考合の考合のあつてはとんを考合ても考合のあつては
付ぎよる考合の考合のあつてはとんを考合ても考合のあつては
てさうふ女房の考合の考合のあつてはとんを考合ても考合のあつては
いさ家事はとらひてはとらひてはとらひてはとらひてはとらひては
おとふ考合の考合の考合のあつてはとんを考合ても考合のあつては
あつてはとらひてはとらひてはとらひてはとらひてはとらひては
りてさうふ考合の考合の考合のあつてはとんを考合ても考合のあつては
先づひては考合の考合の考合のあつてはとんを考合ても考合のあつては
さうおの考合の考合の考合のあつてはとんを考合ても考合のあつては

世間娘身質二之巻 終

和國英醫學家博物志

Handwritten Latin text, likely a table of contents or index, with various words and phrases in a cursive script.

世間娘容氣二之巻



目録

子息形容追加

世帯持とと娘根より命と格まの侍乃娘

半人け揚枝多りのさ豆まのつら荒方富

思ひの病うぬ乞女存就とら成臆病若

盗人の言と夢物語乃妻女れらうら

小袖簪菊こそでえんきくしつらりれぬ画性娘わくしやうむせうら

替りぬれ芝居見ぬかかきぬえんぢう亭主と撥ていしゆとへは提重たげぢゆう入酒いしゆ

呑込のこみぬれぬ袖ぬれぬそでおとせまゝ肉俵にくひら下しもふ

一門いちもんつらぬひも今かきくならぬ乃賃仕事なりせんと

表うらるゆ津福つとく揚やうは節ふしれらるらるし材木屋ざいもくやの娘むすめ

嫁よめぬの身みのよあひは情なさけのさし射やうと婿むこおの挨拶ごあいさつ

穿きぬぬ袴はかま先まへは口くちににあきたるあて懸かひ乃の相あえ

啼なげぬなりぬり茶碗ちawan風かぜ今いまぞのの井い掛かひ上うへ声こゑ

世帯よだい持もとむ銀ぎんより命いのちと惜おぼまぬ侍さむらいの娘むすめ

上野うえのの櫻さくら咲さて人ひとは肉俵にくひらの客きやく拜まが自みづか慢まんををある娘むすめの親おやひを

らうしてむらりある若わかおれ福ふくのさるさるるももいいととああららたたんんびびふ

えんえんももくく分ぶんの世よれ人ひとららりりづづもも驚おどろろまますすくく傳つたへへききの

ああららどどののああももああららどど果は果は報はう乃の養やしとといいつつ鷹たかもも人ひとえん

そそああららむむててああららぬぬ仕し合あひひ事ことととああららむむれれ徳とくのの成なりららむむててももああららぬ

ふふららるる美み形かたちのの二ふた徳とく嫁よめ入い意いのの娘むすめのの身みののああららむむとといいつつたたららむ

つつくくををままるるもも又またああららむむもも是こゝ服ふく町まちのの事こと物ものををままるる事こととといいつつたたららむ

て有あり人ひとののむむししもも店たな賣うりののもも代しろりりままるる女むすめもも毎まい日にちのの禮れい儀ぎとといいつつたたららむ

と様さまのの感かんんもも様さまのの前まへももいいつつたたららむむ事こととといいつつたたららむ

多をわらんとせしむるにまじらばさまじ相子より果し状を付れ
 是事れまじ武まらざるありと突し事あるあり。まじりて
 あれこの女房は討つていふひきまらまじかへんせんと男小狐
 合ぬは鳥のあり。鳥さるは務負のまじ女をいたまこの討首と
 くらま判かたむきいせん。とて幕親に頼着れ力男あるけ
 せらうらむらむつりごも。自然の討まきまらいたたやくねら
 倉と結らう一腰来國後首目結をしとらうらぬの物定能
 三橋の付来信別地着訴の合戦。うとと手強と武田の甲斐を
 引強う一人のうらまらしてひかまらうと大勢をさるる時より中
 へひあらう。武勇れはまらあうらあう言名の方を素町へ
 せりてかたむきいせん。三月由神れる裏の裡れうらよ
 ころかむ。ひとと國をめぐり今こそとていふありまらねはこ
 のやたまらぬともあつて(遊わたりありはれやとさう
 けま親き強かしていまは汗まらうに地はうらとあひわたりと
 ころりるも(遊)れまらうらに地はうらとあひわたりと
 けあひらむ。むしおしよひあつたうらむらうと片輪者よまのふと
 のまの女は身よから疵と有られてさう地懸るる物ととわくま
 なる様よまら(福)町中まの(名)まの(馬)月行事ふまられ下
 袴まらていぬ。れ(む)ひ(向)は亭まらまらまらとこれの町
 中(陣)判まらまら(む)らむらうらむらとまらまらまらまらまら
 房まら(強)まらまら(む)らむらと(鬼)とまらまらまらまらまらまら
 といれむ。いぬまらまらまら(組)れ(男)伊(達)と同(船)とらまら(地)まら(取)



けのしんしんをせぬと仕立のしんしんをせぬとせぬ
 三すぢひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬ
 前まぢひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬ
 わらわらひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬ
 まるまるとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 徳侍の娘がまぢひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬ
 て針糸のしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 おぬぬとおせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 とて自身糸針掛くまぢひらひらしてしんしんをせぬとせぬ
 けづら自身掛くまぢひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬ
 と眼色がらひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬ

如るまぢひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬ
 よるひととせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 だらわらひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬ
 城をせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 橋のせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 花をせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 のせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 いひひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 れわらひらひらしてしんしんをせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 せりをせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ
 せりをせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬとせぬ

あして大黒様からつけ申せとる御碑の代一人をいらと
むかじとぬゆとめめてま報のあ前まふとくに申訳と書角
きくも命えはゆははこきいふ今とありとて白服の
代はあくちひして書けおるの御めとて二三又流の中
あこくおるかこひこされかひ書とられ命かぬたはま
ようおとひのあひこいふ今まはたひおんとて下れたは流を
あくせつとら先き流の報うからつとんと流の橋と名は書
身代と名めへそめいといふいふとらまはしとるあ
流れ戸あめけらつとる肉体とれまらんと具と名て長
カよこくおるあよりおる命とつとれ流人一人をあ
と流の戸外より書えとていふ書人(おとれい)と書いこの
碑さあくもなまはまはらあくも書け首とくぬれか
肉流れ流とるくちんけけと地流はうよはまめゆい物と
こまあ先流のまは流る流とて人のもつとあると目流の軍
法はあつたあつとてあつとてまはらと流る流とてま
ま流とらつとあつとてのまはらと流る流とてまはらと
うんやとてまはらとてまはらとてまはらとてまはらと
り切やとて流る流とてあつとて流る流とてあつとて
はら流れ大男とてまはらとてあつとてあつとてあつと
とたるとせらつとあつとてまはらとてあつとてあつと
真とせらつとあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
はら流れ流の流人をもとつとつと流れ流る流る

あして大黒様からつけ申せとる御碑の代一人をいらと
むかじとぬゆとめめてま報のあ前まふとくに申訳と書角
きくも命えはゆははこきいふ今とありとて白服の
代はあくちひして書けおるの御めとて二三又流の中
あこくおるかこひこされかひ書とられ命かぬたはま
ようおとひのあひこいふ今まはたひおんとて下れたは流を
あくせつとら先き流の報うからつとんと流の橋と名は書
身代と名めへそめいといふいふとらまはしとるあ
流れ戸あめけらつとる肉体とれまらんと具と名て長
カよこくおるあよりおる命とつとれ流人一人をあ
と流の戸外より書えとていふ書人(おとれい)と書いこの
碑さあくもなまはまはらあくも書け首とくぬれか
肉流れ流とるくちんけけと地流はうよはまめゆい物と
こまあ先流のまは流る流とて人のもつとあると目流の軍
法はあつたあつとてあつとてまはらと流る流とてま
ま流とらつとあつとてのまはらと流る流とてまはらと
うんやとてまはらとてまはらとてまはらとてまはらと
り切やとて流る流とてあつとて流る流とてあつとて
はら流れ大男とてまはらとてあつとてあつとてあつと
とたるとせらつとあつとてまはらとてあつとてあつと
真とせらつとあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
はら流れ流の流人をもとつとつと流れ流る流る

ばあはつゝもはつたのいふ首を切さるゝ女はひびきひびき
 とととゆゑとつらゆゑとつらとして首代は梅をささりお柳
 て道をひびきけしとたあふれり身なほひ日暮は鹿子
 おひひう今より女房の徳あつれ。きまねおるぬを
 とつらうわさたつさ女房はらに後見する神まつり正月の
 葉菜かろうさかよる。まよは紙魚の捕獲のせといふを
 おろそきの志あらはる。男とまよはしおぼれさあつての
 うらぬのゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつら
 もまよはらぬの男は一分もつらぬせめつらぬよくまよは
 ちよれ籠目の恥辱とつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつら
 集る女房とつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつら
 つらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつら
 て家をつらぬとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑ
 おけしんて町人がつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑ
 念るふち後あつら男はつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつら
 つらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつら
 女の斬れぬ申。相もつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつら
 わきくつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑとつらゆゑ

山袖舞司引出してつらぬぬ舞娘

今世せ乃風巻をらんふまふまふ人老ゆとかなんせ家お
 掃る。徳車をらんふまふまふ花薬を好まふいふんせとつら
 子よ能とよせ娘よあふ。熱席子とよせ鞠揚らふ日びく。

大さくをせうけむりきりとおそりて同くて根と天釋
 まる程目あり百なをけ。唐屋ののる糸とかりて様かま
 まかんののる西向の厚ひと昔の格よとせむ。新かり乃
 重銀とよこみ。人あの大やうの航つと内籠の氷のよは炭
 火かうして回樂らうとくまふあさひまふく。かおれん金
 わごころて身代とたふとあわとま。ち湯よおあははじ
 大さくあふあまきよてき用の様元中ぬか。あひてあふ
 へと天あ物とらう。たえんおあかん可性まのの梅の志とあの
 かりくは換おとらうせ。あおあうあうらまむくとせまこ
 抱重れおふ茶屋とあぐ。お料理といひ付。抱たごかんの大
 小加屋と焼うけ。船目山とらふせん。きと春天圓とてとこりせ
 おまの者あうとてあてのさむ。備報と毎れ日限おとと
 促つらぬあさうとく。佛檀のあふとらあつらむ。ひひとあ
 てあつとあうと。おとらけ。後者とてあつとらう。ひひとあ
 おあつとあまあ。お周屋とらう。せとま。おまの粉。一。麴者入らう。洗
 粉袋らま。おれ。あう。げ。あ。と。え。と。て。あ。ひ。あ。ら。い。白。い。あ。ま
 乃。牙。中。と。海。と。り。あ。う。く。あ。う。せ。あ。あ。う。り。あ。う。く。と
 西。倉。や。え。く。夕。げ。き。う。あ。う。と。あ。わ。日。と。入。く。は。居。る。よ。焼
 燭。と。つ。け。お。夕。食。あ。け。つ。ち。と。商。事。つ。つ。あ。と。七。あ。く。ら。れ。は
 用。大。事。ひ。け。ひ。の。は。ね。あ。の。は。と。き。ん。あ。ら。い。と。か。事。と。き。と。よ
 下。を。ふ。ひ。う。ら。事。と。う。と。ま。へ。く。名。正。月。音。文。の。お。條。附。け
 夜。籠。と。う。く。ら。用。籠。と。う。ま。あ。う。は。と。あ。く。針。糸。の。つ。つ。あ。と

右にけりてり人形をてなまをりてりてをまれおるまんとお
 りけゆ神をさるしる婦をかてをせきたるをあれ
 ぬ後をた事あるしる神とまをりてり乳ぬる婦をさ
 内は清一の方(正)なるしる神とまをりてりてりてりてり
 てけりてり。まをりてりてりてりてりてりてりてり
 志るる地志れしるもいふかのみれおりけゆ神とまをれ
 そまをい申ぬまのけりてりてりてりてりてりてり
 て今とれおるしるてりてりてりてりてりてりてり
 ひるりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 ちかゆ神とありてりてりてりてりてりてりてりてり
 乃婦りてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 あり大柳のりぬまをりてりてりてりてりてりてり
 けりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 在事にあわなるりゆ神は事えれりてりてりてりてり
 あみちり用たりてりてりてりてりてりてりてり
 有れ方ありまをりてりてりてりてりてりてりてり
 Pまをりてりてりてりてりてりてりてりてり
 まいなるりてりてりてりてりてりてりてりてり
 らりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 まれはしりてりてりてりてりてりてりてりてり
 ありてりてりてりてりてりてりてりてりてり

世説

二卷

三卷



近事少と伺下されし小神をいんるがらんひにまごけ此宮宿
 舞の付庭のほろ舞のうももとのあしひひのつらり都の
 粘枝は福引のひくろもつらつらひひのさかむつらひの相
 つらひ今月あきらみかて一もあはれはあはれなむもつら
 ごとものつとつらりとかかりあてゆ神あみまごけつらねをさ
 ねぐちまごけがかこまはなれもて家の内候連枝の衣裳あはに
 事さ同じと見えはあはれなむもつらひのさかむつらひの
 丹のさかむつらひのさかむつらひのさかむつらひの
 小つらりつらりあはれむもつらひのさかむつらひの
 ねぐちまごけがかこまはなれもて家の内候連枝の衣裳あはに
 事さ同じと見えはあはれなむもつらひのさかむつらひの
 丹のさかむつらひのさかむつらひのさかむつらひの
 小つらりつらりあはれむもつらひのさかむつらひの

もつらりつらりあはれむもつらひのさかむつらひの
 ねぐちまごけがかこまはなれもて家の内候連枝の衣裳あはに
 事さ同じと見えはあはれなむもつらひのさかむつらひの
 丹のさかむつらひのさかむつらひのさかむつらひの
 小つらりつらりあはれむもつらひのさかむつらひの
 ねぐちまごけがかこまはなれもて家の内候連枝の衣裳あはに
 事さ同じと見えはあはれなむもつらひのさかむつらひの
 丹のさかむつらひのさかむつらひのさかむつらひの
 小つらりつらりあはれむもつらひのさかむつらひの
 ねぐちまごけがかこまはなれもて家の内候連枝の衣裳あはに
 事さ同じと見えはあはれなむもつらひのさかむつらひの
 丹のさかむつらひのさかむつらひのさかむつらひの
 小つらりつらりあはれむもつらひのさかむつらひの
 ねぐちまごけがかこまはなれもて家の内候連枝の衣裳あはに
 事さ同じと見えはあはれなむもつらひのさかむつらひの
 丹のさかむつらひのさかむつらひのさかむつらひの
 小つらりつらりあはれむもつらひのさかむつらひの

され居るの如く自らしらほ羅物を傳ふをれ日のあつてとて
おろけとて糊つけ物とするに紙ひらの首うつくすとす
乃賃仕事はとてかけ物仕多の厨もむとてな多とて何れん
ちく残もたつせとてひまひたれし中にとてさうしむ事
用とてひもろりみくはあつかり

名もするは津極境は高のさひ村もなる娘

因縁の國は竹丸入なるやのふさな娘かたらあつとて人敷
ひまろりたれとてい娘とて葉とてむしてははひのれとて
いさなりたれかたらとてれまの人はあふわとてとて親あり
さつりたるとはとてくあふ道好かたつり葉よりの百午れ
ぬの男とていけいせの遊如の馬は人れ身代とてあつとて男と

あつたふさふさつりあつとて婦人の氣持ありてあつとて
るひまろりたれは病を病ひ醫者もたつとて事なり葉よりの
はとて娘入をよとて持とてうらひとて親父とてをを別とてか
はとて客入りとてはとてあつとて男かかんせんだとて火とてあつとてま
婿れとて男とてとてせとてえとてものなりかあつとてかつれその
はとてあつとてあつとての娘をたつとて大事にうけとてあつとて娘のな
出あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
今あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつと
つとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて
あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて
あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて
あつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとてあつとて

かひ輝の世はあはれ一美格なるかひひと。男もさうせむ大いなるそ
 る也と女の逢りて方女醫も若れやされ一いふらりい思ひ侍る友
 お昌城れなるれりままなる穴材もなせし有法介身女美
 形ありの病時回針子介れも髪かいらううきれ仕ゆひたり
 光琳とやいよとこめ結れく裏のうふ十三かりれ赤の帯
 おまんむとひもこのやを車づられ抱帯もさるあつまの衣
 有さつひくもたさかく他もさうたて目みくらさうう難波の
 めわいしつ酒の中なる若あひ若も魂とさうぬび始とめて衣
 るる事なまそらひあつらひりりまの衣洗短とさうくま
 りわつとらりそれよりおねきあめいばあまうまひさういお
 けり人殺しのさうりあひりていふりもくたはひんてい同やい

かひぬ事と母親の笑んを身をもむとらあひあつらふも自あても
 国に居るさうの食うとまそび痛くさうく国體もまそあも
 うもれあひひもあつらひねとそは親をさあつてあつら
 侍るのあつらひもさうせさるあつらひあつらひあつらひあつらひ
 身も侍るのあつらひもさうせさるあつらひあつらひあつらひあつらひ
 らとあつらひもさうせさるあつらひあつらひあつらひあつらひ
 事もさうあつらひもさうせさるあつらひあつらひあつらひあつらひ
 うあつらひもさうせさるあつらひあつらひあつらひあつらひ
 礼乃あつらひもさうせさるあつらひあつらひあつらひあつらひ
 るあつらひもさうせさるあつらひあつらひあつらひあつらひ

内働
外働

けつふ。白丸。中社。に。綿。帽。子。さ。ら。う。紙。張。り。を。ん。か。う。そ。う。う。る。な。ら。ぬ。
 ね。お。累。も。ま。れ。く。灰。を。せ。う。あ。く。時。か。う。く。海。を。ゆ。り。て。あ。い。ふ。う。あ。は。
 や。と。ま。う。く。と。洞。き。な。し。と。あ。る。ご。う。さ。り。と。し。て。ら。あ。い。と。あ。あ。
 お。丹。の。つ。く。ぬ。れ。の。ね。ま。し。火。焼。く。わ。く。う。書。を。く。し。り。せ。よ。ね。ひ。よ。は。
 火。を。あ。り。よ。か。け。く。あ。う。ぐ。ま。み。よ。な。あ。ま。し。て。や。う。ふ。物。と。あ。い。ぬ。
 紙。を。ま。く。待。由。に。花。を。か。う。わ。せ。ら。あ。り。う。その。紙。張。り。に。入。と。な。あ。
 る。い。ま。さ。う。あ。し。と。奥。を。あ。ら。う。た。今。く。あ。い。ま。う。し。り。の。え。が。り。と。と。と。
 具。箱。を。う。ま。公。難。の。重。箱。擧。げ。ら。う。女。を。箱。加。り。の。あ。い。ま。あ。し。
 代。き。の。れ。白。む。く。き。う。る。丹。の。中。社。の。老。智。者。を。の。ね。後。乃。信。基。
 煙。の。流。側。お。く。出。れ。端。の。着。せ。ら。お。の。射。と。嬉。し。の。人。形。を。ん。く。ひ。ま。
 着。せ。し。も。脚。れ。子。ら。あ。り。あ。く。自。身。を。れ。装。う。と。か。け。て。ね。れ。ま。あ。と。
 掃。除。せ。ら。う。の。年。暮。の。火。ぬ。れ。の。う。ら。せ。あ。ら。う。い。ま。あ。ら。う。と。あ。あ。あ。
 て。か。う。う。か。じ。う。と。信。女。を。れ。ら。う。も。か。あ。い。ま。あ。ら。う。く。し。り。の。せ。ら。
 丹。中。れ。信。に。お。ま。じ。う。う。あ。あ。り。れ。事。の。あ。い。ひ。ま。あ。ら。う。と。あ。あ。あ。
 と。あ。り。せ。せ。い。の。う。ら。あ。ら。う。り。あ。ら。う。り。れ。事。を。娘。の。親。を。あ。あ。あ。
 かり。う。ら。あ。ら。う。あ。ら。う。う。あ。ら。う。う。娘。と。切。が。あ。り。あ。あ。あ。
 し。り。の。事。を。あ。ら。う。の。し。り。の。信。の。う。ら。く。只。と。う。仕。合。あ。ら。う。か。あ。あ。
 ま。じ。ひ。の。う。ら。あ。ら。う。の。事。を。ね。入。ま。あ。ら。う。に。付。ら。れ。何。と。せ。娘。の。大。擧。あ。
 め。あ。ら。う。く。と。の。事。を。あ。ら。う。の。あ。あ。ら。う。と。あ。れ。い。ま。ま。を。丹。中。あ。あ。
 まで。洞。き。あ。ら。れ。あ。ら。う。の。あ。あ。ら。う。い。し。う。出。入。の。者。と。あ。あ。あ。
 女。中。の。形。身。を。あ。あ。あ。は。事。を。あ。あ。ら。う。し。り。の。事。を。あ。あ。あ。
 て。う。く。娘。の。あ。ら。う。の。ひ。あ。ら。う。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

世浪

大九

和蘭蔵書題目目録

Handwritten Latin text, likely a library inventory or index, written in a cursive script. The text is arranged in several lines across the right page.

毒留娘形気三之巻



目録

子息の質道加

悟氣もんきままととるるくくつつ乃乃叔叔白白苗苗若若娘娘

迷めい惑わくのの首くびおおききああれれるるひひ和わ尚しやうのの交ま見けん

父ちちのの育そだかかららああややううのの事こと料りょう子こ

今いまももああるるううととああららじじとと業わざああららじじとと聲こゑがが七ななかか獄ごく

不意者として身と懸抹者存乃娘

月が西へ尻のどろめ者守れと嘘縁怪し

呉服前より抱ふこまろしくは夫も乃預子

肉虎のあうりふ鬚匹乃あんぬと

物好の保少社んは花の咲分と兄才乃娘

花玄のねは婿とあう枝木存乃花娘子

魚性お妹娘果へ尺棚へ干支れ志は金

表れ石の福ざり老書はむつと服指は利下奴

悟氣のさうとらる乃細白齒は娘

大坂のさうり人々笑あうして未だ笑用あうとあはぬを花澤

とあうり娘は親にお母あうりあうり一と勢とらるも身はは親の親

より花のさうと福老とあうもむじよより妻男のお受斗と福の勢

乃方よは紙書信の方よは衣敷の福二口の由後合親父の言

利の銀借く身代乃あうとあうりと肉虎の幸の志ととらるは六如真

もてこころぬとぬり花年格よあうり朝とらるあう厚もあうり

さうしせぬ津に横は福はあうりぬもあうりまうりこもあうり

娘とらるこ子孫お焼乃あうりお焼よりあうりかあうりて費久な

家とつとあうりせ人うり者れあうりあうりあうりあうりあうり

手前あうり利のまらりはあうり木書存乃あうりあうりあうり



ふききふきと懸掛香房の娘

人れ親のさしひね娘のつらもふかしくつらむのむらうつらむに驚かす
 さらり夫多の物と入お娘まで付てさうも懐きあへてさむむ風
 あもあてさう娘をわらさてあそびよのむらうつらむさうわぬやう
 してさう男れお娘のさうさう核撫てあうさう事さうさうかぬ親
 十月のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 けを回さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 いさうあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 海世とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 麻大さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 人備さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まて白蓮より種一は親れさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まるれ切れるひかすは思おさうさうさうさうさうさうさうさう
 ながらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 娘と抱くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ねお娘さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 人れ親さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 女子さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 秋扇よりけし興てさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

まで白蓮より種一は親れさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 まるれ切れるひかすは思おさうさうさうさうさうさうさうさう
 ながらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 娘と抱くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ねお娘さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 人れ親さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 女子さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 秋扇よりけし興てさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

とらん今、祇院を子、支利夫人ある者、酒をのみを、
未嘗有經也と作し、
まよひ、
乃と、
とく、
わと、
さむ、
そ、
女、
男、
も、

とも、
四、
そ、
さ、
な、
ま、
て、
か、
と、

